

特別支援学校をのぞいてみよう①

富山県立高志支援学校



肢体不自由のある子どものための特別支援学校です。この学校に通う子どもは治療や訓練を受けるため、隣接する富山県リハビリテーション病院・こども支援センター（以下「県リハ」という。）に入所又は通所しています。それぞれの子どものニーズに応えるために、Ⅰ～Ⅱ（普通学級）及びⅢ～Ⅳ（重複学級）の教育課程を編成しています。

時間割(例)

1学年 Ⅱ課程						1学年 Ⅳ課程					
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	
1	国	算	国	国	国	1	訓練	訓練	日生	日生	訓練
2	音	図	体	生活	体	2	日生	日生	訓練	自立活動	日生
3	算	図	国	音	国	3	図	自立活動	体	音	自立活動
4	国	国	学活	算	算	4	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
5	生活	道徳	生活	訓練	自立活動	5	自立活動	音	自立活動	自立活動	図
6						6					



Ⅱ課程（普通学級）は小学校に準じた教育を行い、教科の学習に加え、障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための自立活動の時間があります。Ⅳ課程は自立活動の時間が中心となります。



自立活動の時間の一部は県リハで訓練を受けています。



子どもの気持ちに寄り添い、一人ひとりの子どもや保護者のニーズを大切にして指導しています。

教室をのぞいてみよう！

児童の実態に応じて、机や車椅子テーブルを使用して学習しています。教室の後ろにはマットが設置してあり体位交換や医療的ケアができるスペースがありました。医療的ケアのある子どもは学習している教室での医療的ケアが基本。昼は学習室にみんな集まって注入します。口から食べることができる子どもはランチルームで介助を受けながら食べています。





～支援ツール等の紹介～

学校生活を送る上で便利な
支援ツールがこんなにたくさん！



車椅子に乗ったままタブレットを使えるようにタブレットスタンドがあります。マットで横になった姿勢で医療的ケアを受けながらもスタンドがあれば使うことができます。便利です。



医療的ケアのワゴン。学校看護職員はケアの時間又は呼び出しがあると教室まで向かい、子どもの医療的ケアを行います。



図書室にはモニターとスイッチのツールがあります。本を読む時に自分でページをめくることが困難な場合、このスイッチツールを使えば簡単にページを送って読むことができます。



廊下の交差点では、車椅子の子どもも見やすいように視覚支援がなされています。交差点でぶつからないためにスピードダウンして移動するよう子どもに指導しています。



座位の取れる子どもは椅子に座って学習します。通常の机と比べて、姿勢をしっかりサポートできるように身体に沿ってカーブしています。机横には教科書などを置く予備の机もあります。



朝の会でその日の予定や天気など様々なことを子どもに伝達するツールもあります。字を読むことが困難でも、イラストカードで分かりやすく示されており、コミュニケーションのツールとして使われています。



特別支援学校をのぞいてみよう②

富山県立富山総合支援学校



肢体不自由のある子どもと高等部から軽度知的障害のある子どものための特別支援学校です。肢体不自由のある子どもは通学バスを利用し、登下校を行うことができます。医療的ケアが必要な子どもは、車内での安全性が担保できないため、保護者の方に送迎をお願いしています。通学困難が認められる場合、寄宿舍を利用することができます。（対象：肢体不自由児（小学部5年生以上））



医療的ケアのワゴンが子ども1人につき1台用意されています。学校看護職員はケア時間又は呼び出しがあると教室に向かい、痰吸引や注入などのケアを行います。



教室の一角のマットスペースで寝転んで身体を伸ばしたり、体位交換したりできます。腹臥位（ふくがい）になれるクッションもあります。腹臥位用クッションには穴が空いており、胃ろうによる経管栄養を行うこともできます。



ベッドがある教室もあります。子どもの障害や特性により必要なものを設置しています。

教室をのぞいてみよう！

富山総合支援学校は少人数で学級が編制されています。肢体不自由児のクラスはそれぞれの子どもの特性に合わせてマットやベッド、机などを工夫して設置しています。また軽度知的障害の子どもと肢体不自由の子どもが一緒に過ごしてお互いに助け合ったり刺激を受けたりできる環境です。対大人だけでなく、子ども同士の関わり合いもあるところが魅力的ですね。





～支援ツール等の紹介～

学校生活を送る上で便利な
支援ツールがこんなにたくさん！



スイッチ教材

『これをしたい』、
『友達と遊びたい』など
話すことが難しい子ども
が友達や先生に伝える時
などに使います。



学習で使う支援ツール

数の把握や指先の微細
運動に使います。



視覚支援

字を読むことが困難な
子どもが分かりやすいよ
うイラストで表し、コミ
ュニケーションツールと
して使っています。



足湯バケツ

自立活動の時間には足
浴（そくよく）をするこ
ともあります。車椅子の
子どもも足先があったま
って気持ち良さそうです
ね。



ストロー入れ

認知的学習に使用して
いるツールです。このよ
うなツールは一人ひとりの
障害の特性に応じて
様々なものを使用してい
ます。

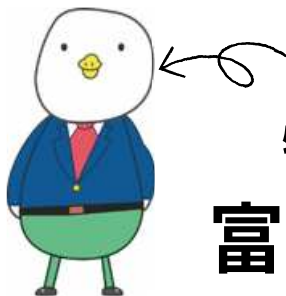


プロンボード (起立保持具)

子どもによってはプロ
ンボード（起立保持具）
に立ったまま授業を受け
る場合もあります。他に
も座位保持椅子やSRC歩
行器もあり車椅子とは違
った感覚や景色が見えそ
うですね。



子ども一人ひとりのニーズに応じた
学習支援を心掛けて日々の学習活動
を行っています。



しらとり支援学校公式キャラクター
「しらとりくん」

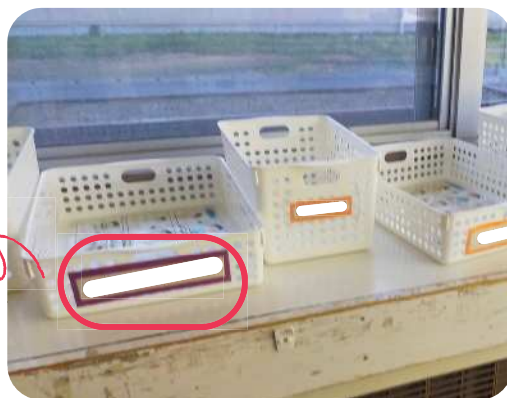
就学予定の子の
ママが取材して
きました。



特別支援学校をのぞいてみよう③ 富山県立しらとり支援学校

知的障害がある子どものための特別支援学校です。通学区域は、富山市、中新川郡、滑川市など広域におよび、通学バスが8コース（上市・大山・笹津・稲荷町・水橋・天正寺・岩瀬・下新町）用意されています。在籍する子どもの数が富山県で最も多い特別支援学校ということもあり、とても活気にあふれています。遠距離通学および家庭の事情により通学が困難な場合、寄宿舎を利用することができます。（原則小学部4年生以上）

教室の工夫



目印があることで
理解度が高まりま
すね！



机の上やカゴには色で縁取りされたラベルに子どもの名前が記載してあり、文字が読めない子どもでも、自分の席や持ち物が分かるようになっています。



もっと支援が
必要な子ども
には、手順が
細分化された
ものを併用し
ています。

毎朝の日常生活の指導では、子ども自身がやるべきことを自分で確認しながら行動できるように、手順を記載したボードが用意されています。やることが終わるとカードをひっくり返し「おわり」としていくので、次やることが分かりやすくなっています。

交流及び共同学習について

希望があれば、居住地にある学校との交流を行うことができます。交流を行う学級（通常の学級又は特別支援学級）については、本人や保護者の希望をお聞きして決定しています。コロナ禍でしらとり支援学校の近くの学校との交流は作品交流のみとなっていました。令和5年度から対面交流が少しずつ再開されました。（小学部4年生以上が対象）

あさのかい



あさのかいでは、一人ひとりに担当が振り当てられています。誰がどの担当になるのかわかるように、子どもの写真が右下に貼られているクラスもあります。子ども一人ひとりが主体的に当番活動に取り組めるように支援されています。

時間割りの工夫

子ども一人ひとりが見通しをもって行動できるよう、何時間目にどの教科や活動をどこで行うのか写真や文字で確認できるようになっています。

実際の写真は笑顔があふれています。

担任の先生の写真

学級名は担任の先生の苗字となっています。

休み時間の始まりと終わりにタイマーを使用しています。音に子ども達が反応し、気持ちの切り替えなどができるので、次の授業にスムーズに移行できます。

きちんと座る、しずかにお話を聞くなど、良い行動がとれたときに先生が花丸マークを書く学級や、個別に星マークをもらえる学級などがありました。花丸マークや星マークがどんどん増えていくことで、「次も頑張りたい!」と意欲的に学習や活動に取り組むことができるようになります。取得出来た星の数によって遊べるおもちゃを選べるように設定してある教室もありました。



連絡帳

連絡帳で学校での子どもの様子や出来事が分かるので自宅で話しかけてあげられます。

就学済みのママ



子ども一人ひとりの個性を尊重し、その持てる能力を最大限に伸ばすことを心掛けています。明るく、仲良く、健康で、安全に子どもたちが笑顔で過ごしてくれるのを願っています。

個別の相談や見学を随時受け付けています。在籍所・園・校等を通してお気軽にお申し込みください。

教育相談部（教頭まで） ☎ 076-469-5492



保護者の体験談 ④

就学先は特別支援学校の「訪問籍」を選択しました。週3回、一回1時間半の授業を受けています。子どものペースに合わせて、一緒に楽器を弾いたり、お歌を歌ったり、工作したりしています。入学式、運動会などは学校に行って参加しました。終業式は、zoom(ズーム：映像と音声で遠隔にいる相手とコミュニケーションが取れるサービス)を使用して、自宅と学校をつなげてもらい参加しました。先生方はいつも一生懸命にどうやったらできるかを考えてくださるので、とても心強い存在です。就学については、分からないことが分からないからのスタートでしたが、教育委員会さんや支援学校の先生など、関係機関の方々から色々な情報を頂きながら進めることができました。



特別支援学校の先生方は、優しいです。安心してください。本人の理解に応じて教科書をお歌絵本にするなどして対応していただきます。鼻に指を入れていても、足の指を舐めていても、怒られません。疲れて寝ていても、無理に起こされる事はないです。おむつ替えも丁寧です。できた事を喜んでくださいます。学校に通うようになってから、子どもが変化するのを感じられました。



就学前は、人懐っこくなかった息子ですが、特別支援学校に通い始めてから、スーパーの店員さんや、特別支援学校の先生方にバイバイやタッチをすることが多くなりました。また、クラスの子たちと同じ空間で、同じ作業を行うなどの団体行動もできるようになりました。地元の保育園に通っていたため、障害がある子どもの保護者が周りにおらず、孤独感を感じてしまうこともありましたが、特別支援学校では、同じ境遇の保護者さんたちばかりなので、安心感があります。特別支援学校の先生方は、とても手厚く支援してくださるので、親も安心して子どもを通わせることができます。バスが大好きな息子は喜んでスクールバスに乗って毎日登校しています。



毎日自家用車で送迎しています。車椅子が必要＆医療的ケアがあるため、学校の玄関からではなく、1階教室外側に車を横付けして抱っこして教室に入っています。医療的ケアが無い子どもたちは玄関から入っていますが、大きな屋根があるので雨の日も濡れないよう工夫されています。学校の雰囲気は落ち着いていますが、活気があります。先生たちや看護師さんも温かく、よく子どもを見てくださいます。学校の入学の際、通常書類や医療的ケアの書類などが山のようにあり、大変でしたが、子どもの状態についてしっかりと情報を把握して頂くために必要なことであると思いました。週1回午後から早退し、リハビリに通うなどしながら学校生活を送っています。

